重要なサステナビリティ課題(マテリアリティ)

日本車両では、取締役会において、当社のサステナビリティについての取り組みの基本方針を策定しています。また当 社の重要なサステナビリティ課題に対する取り組みの推進主体として、代表取締役社長を委員長とする「サステナビリ ティ推進委員会」を設置し、長期的な視点で、当社にとって重要なサステナビリティ課題(重要課題=マテリアリティ)を 特定しています。特定したマテリアリティに対する取り組みを推進することで、持続的な企業価値の向上に資するととも に社会課題の解決に努めています。

マテリアリティ特定プロセス

1. 重要課題リストの作成

グローバルリスク報告書、 SDGs、SASBスタンダード、 GRIスタンダード、MSCIなど のガイドラインや評価事項等 を参照し、社会的課題の洗い 出しを実施。

2. 課題の整理・集約

社会的課題のうち、当社におけ る重要度、関係性を分類した 重要課題候補リストを作成。

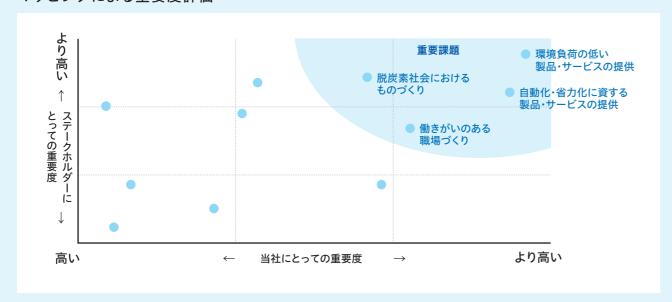
3.影響評価

重要課題候補に対して、マッ ピングによる重要度評価を 実施。 ※図は以下参昭

4. 最終化

当社における重要課題(マテリ アリティ)を特定。

マッピングによる重要度評価



重要課題

- 1. 環境負荷の低い製品・サービスの提供
- 2 自動化・省力化に資する製品・サービスの提供
- 3. 脱炭素社会におけるものづくり
- 4 働きがいのある職場づくり

事業概況

鉄道車両事業

事業ハイライト

|R東海向けおよび|R西日本向けN700S新 幹線電車や | R東海向け315系電車の他、東京 都交通局向け電車、名古屋鉄道向け電車などの 売上があり、公堂・民堂鉄道向け車両の売上 が前連結会計年度に比して増加したことなどに より、鉄道車両事業の売上高は44 746百万円と 前連結会計年度比10.2%増加となりました。

売上高構成比

売上高構成比46.4% 447億4,600万円



過去3か年の売上高・営業利益

■売上高(百万円) ■ 営業利益(百万円)



建設機械事業

事業ハイライト

大型杭打機、小型杭打機、全回転チュービング 装置などの売上があり、国内向けの大型杭打機 や部品等の売上が前連結会計年度に比して増 加したことなどにより、建設機械事業の売上高 は22,809百万円と前連結会計年度比7.6%増加 となりました。

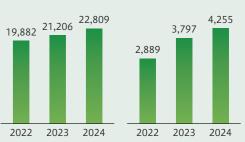
売上高構成比

売上高構成比23.7% 228億900万円



過去3か年の売上高・営業利益

■売上高(百万円) ■ 営業利益(百万円)



輸送用機器・鉄構事第

事業ハイライト

輸送用機器におきましては、民生用バルクローリ、大 型自走式キャリヤなどの売上があり、LNGタンクト レーラの売上が前連結会計年度に比して増加しま した。鉄構におきましては、圏央道飯沼川高架橋、佐 世保道路須崎橋などの売上があり、道路橋の売上 が前連結会計年度に比して増加しました。以上の結 果、輸送用機器・鉄構事業の売上高は22.182百万 円と前連結会計年度比20.4%増加となりました。

売上高構成比

売上高構成比23.0% 221億8,200万円



過去3か年の売上高・営業利益



エンジニアリング事業

事業ハイライト

鉄道事業者向け機械設備の他、各地のJA向け 営農プラント、家庭紙メーカー向け製造設備な どの売上がありましたが、鉄道事業者向け機械 設備の売上が前連結会計年度に比して減少した ことなどにより、エンジニアリング事業の売上高 は6,548百万円と前連結会計年度比15.5%減少 となりました。

売上高構成比

売上高構成比6.8% 65億4,800万円



過去3か年の売上高・営業利益

■売上高(百万円) ■ 営業利益(百万円) 9,155 7 746 6,548 $^{^{271}}$ △831 2022 2023 2024 2022 2023 2024

NIPPON SHARYO Report 2025